

# 平成19年第4回定例会（12月）一般質問

## （2）学校教育における質の向上について

- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下 裕美子 続きまして学校教育における質の向上について教育長にお聞きします。

先頃発表された全国学力調査で北海道は小学校5年生・中学校2年生共全国の下位であり、2006年の国際学力到達度調査結果では日本の高校1年生の学力低下が明らかになりました。このような学力面だけでなく、いじめ問題や授業態度の悪化・学習意欲の低下など様々な場面で今、学校教育に不安と感心が高まっていると言えます。

このような社会情勢の中、月形町では小中高の各学校がそれぞれに特色を持った取り組みをしているのは、とてもすばらしいことであると思います。例えば月形小学校では標語の取り組みで数々の入賞を果たし、子ども達が自信を付けているのを感じますし、札比内小学校では複式校の特徴を生かしグループ学習や意見発表など積極的に行って、個々に力を付けているのが見て取れます。

月形中学校では地域や社会との係わりが多く、広がりのある教育を実践していますし、月形高校では始業前や放課後の授業実施による学力向上や資格取得・生活面でのサポートなど少人数の高校ならではのきめ細やかな取り組みなどがそれです。

これらの取り組みはそれぞれの学校だよりを通して各学校区に広報され、私たち町民も家に居ながらにして学校の様子をかいま見ることができています。

このように各学校が独自に積極的に情報発信しているので、特徴を持った教育に取り組んでいる姿が良く分かりますが、その一方で各学校の相互交流や相互協力についてはほとんど情報がありません。それぞれの有意義な取り組みの手法や情報が学校間ではどのようなかたちで共有されているのか疑問があります。

独自性を尊重するこの時代に町内全ての学校が同じことをする必要は無いと考えますが、その情報や手法は共有の財産として各校独自の取り組みに生かすことはできると考えますので、もし何も共有されていないのであれば宝の持ち腐れとなりもったいないと感じるのは私だけではないでしょう。

そこで教育長にお聞きしますが、今、現在、月形町の学校間で相互交流や相互協力あるいは情報や手法の共有はどのように行われているのでしょうか。

またそれらの重要度をどのように認識しているのか、お聞きいたします。

○ 議長 吉田 義一 教育長。

○ 教育長 渡部 稔 宮下議員が前半に言われたとおり、わが町には小学校2校・中学校1校・道立高校があり、それぞれの学校が創意工夫を凝らして特色ある教育活動を展開し、町長も午前中に述べていましたし、今、宮下議員も言っていたように一定の成果を上げていると感じております。

また3校がそれぞれ上げている成果をお互いに知り合ったり交換したり、あるいは参考にできるものは参考にすることは、大変大事なことでと思いますが、3校がまったく同じことをすることは、それぞれの学校の子供達や取り巻く地域が違いますので、それは必要無いと思っています。

質問にありました学校間での相互交流や相互協力あるいは情報や手法の共有はどのようにやっているのかということですが、例えば町内小中学校の教職員全員で組織している3校研修会というのがあり、年間3回、放課後集まり、ある人は国語部会、ある人は算数・数学部会のように教科部会に分かれ、養護教諭は養護教諭部会、事務は事務職員部会に分かれて、日頃の実践や成果・悩みなどをお互いに出し合っあって資質の向上に努めたり、成果を持ち帰って明日からの実践に役立てたりしている活動があります。

また毎年実施している小学校6年生の合同修学旅行では、2校の子供達と同じ乗り物に乗り同じ場所を見学し同じホテルに泊まったりする中で、お互いの人間関係を深めたり、2校の先生方の相互協力によって子供達にきまりやマナーの徹底あるいは安全指導・体験活動を行うということで、そういう活動を行っております。

このように大きくは教師を中心とした交流と子供を交えた交流に分けられますが、時間の関係で他は項目だけ申し上げますが、小中教職員研修会・教育実践発表会（公開研）・似たようなかたちで公開授業研究会・小中高児童生徒指導連絡協議会・各学校の参観日公開・運動会や学芸会などの学校行事の公開・新潟市月潟地区との児童交流・大谷地東小学校との田植え、稲刈り体験集会・芸術鑑賞会と合わせた合同給食交流会・初級リーダー研修会・子供会対抗ミニバレーボール大会・ドッチビー大会などの社会教育事業、そして何と言っても最も情報を共有し、各学校への徹底を図る場合は毎月1回定例化して開催している月形町校長会と月形町教頭会があります。

このように教育委員会と月形小学校・札比内小学校・月形中学校の4者が相互に交流や協力を行って情報を共有して教育実践に当たることは、極めて大切なことであると考えております。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

- 議員 宮下 裕美子 了解しました。各学校間では私たちの目に見えない所で様々な取り組みがなされ、その情報も取り組みも共有されていることが分かりました。

月形町ではとても良い状態で学校教育がなされていることが分かりましたが、それでも子を持つ親としてはより一層、より質の高い学校教育を望んでいますので、その期待に応えるためにこれから先何が必要なのか、教育関係としてはどのような施策をする予定なのか、お考えをお聞かせください。

- 議長 吉田 義一 教育長。

- 教育長 渡部 稔 子どもを持つ親が、より一層質の高い教育を望んでいると、これに応えるために教育長はこれからどうするのかということであると思いますが、学校という所は何と言っても教育のプロの先生方の集まりですから、「知・徳・体」の調和のとれた子どもを育てることに尽きるのではないかと考えております。そして私がこれからもっと力を入れたい部分を5つにまとめてみたので、申し上げます。

一つ目は、先ほど宮下議員も言っていましたが、何といても確かな学力の向上であります。文科省の学力調査では北海道が目を見たいような結果であり、年明けに道教委は14支庁別に発表する予定で、発表する前からでも14の下の方であると思っていますので、議員協議会でも説明しましたが、各学校で作成している学力向上対策・道教委がこの間示した、これからも示されますが、その対策に応じ対策を用いて力を入れて行きたいと思っています。

二つ目は、心の教育の充実であります。人間尊重の精神や生命を大切にすること、特にいじめを中心とした問題行動の未然防止に努めてまいります。

三つ目は、健やかな体の育成であり、体力や運動能力の向上・食育の充実・事故や災害から身を守ることに力を入れて行きたいと思っています。

四つ目は、これがかなり大事であると思いますが、教員の資質の向上についてであります。これなくして成果は上がらないだろうということで、即ち教育への使命感・高い指導力を校内研修や現職教育を通して、教育の資質の向上を図って行きたいと思っています。

五つ目は、地域で子どもを育てるという環境づくりであります。学校の先生方が毎日授業をやっていますが、自分の持っている能力を最大限に発揮することが前提であり、その上に立ってなおかつ相乗効果を上げたいという場合は、家庭や地域の方々が持っている教育力を活用することが、大変大事であると思っています。

子ども達の安全を守る活動あるいは学力向上のためのボランティア協力活動・地域に住んでいるその道のプロの活用あるいは学校から離れて学んだ方がいいという施設・設備の活用が大事であると思います。

この五つを中心に教育活動を推進することによって、子どもにとって学びがいのある学校になるはずですし、保護者にとっても魅力ある学校になると考えております。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 教育長の考えを聞かせていただき、ありがとうございました。

今、五つの点を申されたのですが、そのうち四つ目までは主に学校現場で行うものであって、私たち一般市民にはなかなか見えない場面であると思います。

それで五つ目についてお話させていただきますが、教育長も最後に言っていたように地域力の活用がこれからの教育では重要な位置を占めると考えます。

月形町の場合は学習塾や私学に関しては少ないですし、お教室や習い事など民間の教育機関を選択する幅は非常に狭くて、月形が月形らしい方法で資質を向上させるとなれば、先ほどの五つ目が特に重要になると考えます。実際の現場で地域力を学校現場に生かす場面において、学期末に教育委員会から授業参観の情報を地域に流していますが、実際に学校に来る地域の方は殆どいませんし、保護者に関しても以前に比べれば参加者が減って関心が薄らいでいるように感じます。

かつて町内に複式小学校が数校あった頃は、小学校を中心に保護者も地域も一体となったコミュニティが確立されて、学校教育に積極的に係ってきていましたが、統合が進んだ今、学校と関係を持つのは、一部PTA役員や関心の高い保護者のみとなって、地域が学校から離れていっているように、先ほど教育長が言ったように地域をもっと近づけるというより、逆に離れていっているように感じます。

様々な場面で地域のサポートが必要であると思いますが、教育長は離れて行きかけている現状を先ほどの目標に戻すためには、どのような具体策があるか、あればお聞かせいただきたいと思います。

○ 議長 吉田 義一 教育長。

○ 教育長 渡部 稔 地域と学校との係わりというか、地域が学校や子どもをどのように育てるかということであると思いますが、私たちはそれを地域の教育力と言っており、大体二種類に分けられると思いますが、一つは地域に住んでいる人材をどのように活用して効果を上げていくか。もう一つは学校から飛び出て地域にある施設設備で学んだ方が効果が上がるという二つに分けられていると思います。

一つ目の人材活用ですが、今までの例を挙げると幼稚園長を講師として命を大切にす  
る授業を行った学校・同じように愛光園の施設長を講師としての福祉についての勉強・  
地球温暖化防止活動推進委員の方を呼んで温暖化防止など環境教育・農業改良普及員や  
振興公社あるいは農協の方を講師として田植え、稲刈り学習・給食センターの栄養士を  
講師として食育・人権擁護委員を講師として人権教育・地元農家の方に学校に来ていた  
だき、それぞれ学年別に教材園での野菜作りの学習・PTAの方々を講師として子ども  
盆踊りの指導を受けるなどをやっております。

それから施設設備の部分では、幼稚園を訪問して園児と交流を深める、同じように花  
の里保育所を訪問して保育体験・愛光園へ行って福祉学習・午前中から出ていますが博  
物館まで来て月形町の歴史の学習・地元の農家まで出かけて行って栽培学習・定例町議  
会を見学し社会科の勉強をするなど、そのようなことが行われてきたと思っております。  
その他、教育委員会には英語指導助手ヨング・リーが居ますので、これは以前からやっ  
ていますが、小学校1年から6年の英語学習あるいは月形の人ではないですが、岩見沢  
税務署の署員の方に来ていただいて税金に関する勉強も行っております。

大事なことは担任の先生がやって一番、効果が上がるのであればそれでいいと思いま  
すが、その道のプロが町にもいるだろうということで、そういう方を呼んで一緒にあるい  
はある程度の時間、授業をやってもらった方が、子ども達に定着する、効果が上がるとい  
うことを狙ってやることは、大事なことであると思っておりますので、宮下議員が言われた  
とおり地域には色々な教育力がありますので、今後共、それらを活用して成果を上げて行  
きたい、学校に働きかけたいと思っております。